

οὐρανός

TOHOKU GAKUIN UNIVERSITY

ウーラノス

Vol.8

OCTOBER 2001

 東北学院大学 広報誌
TOHOKU GAKUIN UNIVERSITY

ウーラノス

「 (ウーラノス) 」
は、「天」を意味するギリシャ語
です。イエス・キリストは「天地
は滅びるが、わたしの言葉は決
して滅びない(マタイ24:35)」と
語っています。この個所にも
οὐρανός が用いられています。

CONTENTS

■特集 NEW WAVE T.G.U

対 談
同窓生を訪ねて

- 東北学院資料室にみる足跡...
- 学生たちは、今.....
- 協奏、そして共創へ.....
- 法科大学院について.....
- 大学と家庭を結ぶ.....
- 学長室より.....
- 大学院より.....
- 学部より.....
- 国際交流センターより.....
- 研究所・センターより
- 図書館より.....
- 就職部・入試センターより ...

21世紀の世界は、多元的価値観の錯綜するグローバルな時代、即ち、価値観を異にする他者との対話が必要とされている時代を迎えています。自分自身を明確に把握でき、排他的雰囲気
の支配しない適切な対話の場を作ることのできる人材が求められています。世界の文化の進展
と福祉に貢献し得る教育の実現に向けて前進したいと願っています。

海外での活躍——グローバルな視点

同窓生を訪ねて デンマーク・コペンハーゲンより

対談者

かずえ・アンデルセン (Kazue Andersen氏)
昭和35年本学文経学部英文学科を卒業。昭和39年ご結婚と同時に渡欧。昭和49年LONDON SCHOOL OF ECONOMICS AND POLITICAL SCIENCE (LSE) 国際関係学科修士課程に学び、昭和55年から国際会議通訳連盟(AIIC)会員として会議通訳の仕事を始め、現在に至る。

倉松 功 本学学長

場 所

デンマーク・コペンハーゲン
ホテルシュトラントにて

回顧 学生時代

アンデルセン 宮城第一女子高等学校を卒業し東北学院大学に入学しました。当時の東北学院大学はとても家族的な雰囲気のある大学でした。それだけに先生方とのつながりも非常に緊密だったと思います。東北学院大学は英語が当時から有名で、英語が好きだった私は、大変魅力を感じていました。オーディオ・センターなど当時の最先端の施設も忘れられません。

学長 本学の特徴の一つに、自己責任の下で自由に学べる大学ということが挙げられます。また、本学では今、主専攻(メジャー)と副専攻(マイナー)制度を導入できないか全学的に検討をしています。これはわかりやすく言えば、卒業単位の半分を自分の学部で修得し、残りの半分の単位はどの学部でも修得できるという制度です。近年、実業専門性を強調する傾向があります。しかし、幅広く深い教養教育を大切にしていきたいと考えています。

アンデルセン 自由に学べることが東北学院大学の良さであった

と思います。自己形成期にこそ学習の効果があがりますから幅広い基礎知識というものは、大学から得られる最大の成果であると思います。そのような若い人が社会に出れば、広く関心を持つ社会人となっていくでしょう。また、学校や学年が上へ行くほど、どうしても専門化してしまいます。せめて出発点は幅広く勉強し、その後、相互補完しながら学んでいければいいと思います。

海外への飛躍

学長 本学を卒業されてからは、どのような歩みをなされたのですか。
アンデルセン 英語という新しいツールを身につけることによって、文化の異なる全く知らない人々とのコミュニケーションと意思疎通ができることに大きな関心がありました。子供がある程度大きくなり、時間的にも余裕ができた時に、国際関係や国際法の知識を得たいという思いから、LSEで国際関係学科の講義を受けました。若い時、幅広い基礎分野と同時に専門分野を勉強できたことは、貴重な経験だったと思います。

学長 通訳というのは、対象が多様で専門的であるため、対応するためには幅広い教養を持ち合わせていないとできませんね。
アンデルセン 通訳の対象者とある程度共有できるレベルの知識がないと、本当にいい通訳はできません。通訳をする人間は皆勉強家でもありますね。最近では、自分の特に関心のある分野を集中的に学んでいます。仕事は企業関係のは少なく専門分野の会議がほとんどです。例えば、原子力、環境、製薬、安全保障、人権問題などいろいろあります。その他、政府間交渉、政策協議、異なる分野の専門

デンマークで夏の休暇を過ごした際、国際会議通訳連盟会員としてヨーロッパを中心に国際会議同時通訳の仕事をしている、同窓生のかずえ・アンデルセンさんと対談の時を持ちました。(倉松記)

家の横断的会議でブレンストーミングや世界の将来について話し合ったりするのが好きです。

学長 新しい学びへの関心はどこから出てくるのでしょうか。それは、学生の頃の勉強、体験、基礎教育、教養という素地でしょうか。

アンデルセン 全ての基礎は好奇心だと思います。貪欲なほどの好奇心です。通訳者でもいわゆるがり勉めの人、通訳の対象が学んだ分野から外れしてしまうと対応ができません。私は前回の会議の議事録や出席者の顔触れ、背景資料などをもとに予想しながら専門分野の準備をします。

学長 日本でも学歴偏重という形を見ることが出来ます。幼稚園から既に始まる大学に入るための受験勉強ということしかしないという側面があります。今後もこの傾向が続くのであれば、日本の教育は恐ろしいことになると思います。アンデルセン ヨーロッパの教育では、幼少の頃から皆議論をするスキルを身につけます。大学においては、先生と学生の対等な議論により講義が繰り広げられています。私自身日本では、女性は自分の意見を言うものではないという家庭環境に育ったものですから、こちらに来た時はしばらく苦労しました。

学長 今日、日本の家庭には3つの問題があるように思います。1つは、自立している男性が少なく、生活的にも精神的にも自立していないということ、第2に、家庭での会話ができず、会話がないため家庭の形成も長続きしないこと、最後に、お互いの家事分担の生活習慣がないということです。家庭でのコミュニケーションや自由に公平に家事を分担して家族を創り上げていくことが非常に少ないのでしょうか。

多様な教育システムと北の地に

学長 教養教育と専門教育の関わりについて、本学では例えば工学部の学生が経済関係や法律関係の講義も受講できるようなシステムを早期に導入したいと考えています。

アンデルセン ヨーロッパのトップの人を見ますと、一つの学位だけでなく、工学や理学を学んだ上に法律学や経営学を修得した人も多いです。

学長 東北学院大学には教養学部があります。この教養学部の教養教育を大事にしていき、学生も注目してくれることを望んでいます。特に思想や絵画、音楽などに触れていることは、社会に出た時、特に海外では交友の共通項となるでしょう。

アンデルセン 「東北学院時報」を毎月お送りいただいています。先生方が研究している内容を紹介する記事がありますね。それを特に興味深く読ませていただいています。先日読んだ内容に東北文化考や考古学分野がありました。

学長 文学部の史学科にその方面に詳しい先生がおります。日本の中の東北だけではなく、アジアの中の東北という視点から、文化人類学や民俗学、あるいは考古学や歴史学などの優れた先生方が多くおります。関連する研究施設として東北文化研究所もあり、本学で学ぶ学生には非常に恵まれた環境ではないでしょうか。

アンデルセン 東北という地域は、今まで日本の中で最も軽んじられ、後進性ばかりが強調される傾向がありますが、もっとも東北の特性を研究することは大切だと思います。他地域の無計画な乱開発の過ちを繰り返さないためにも、東北にふさわしい発展を計画することはすばらしいと思います。東北

の人々は純朴で心が温かく感じます。人とのつながりを尊重する風潮は失いたくないですね。

学長 私は東北の地域的逆有利を強調しています。開発が行き過ぎ、爛熟(ランジユク)した日本の他の地域よりも、東北固有の文化を生かしながら、様々な発展の可能性があるということです。

アンデルセン 会議通訳の同僚の卒業大学名を聞くと、限られた名前しか出てこないことが残念です。東北学院大学の学生たちが世界で活躍されることを楽しみにしています。

学長 海外での経験ですが、地位のあるなしに関係なくコミュニケーションがとられている光景を見ることがあります。肩書き主義の日本ではほとんどありえないことであり、毎年ヨーロッパで受けるカルチャーショックです。

アンデルセン 日本では人間であるというよりも、肩書きが優先してしまいます。ヨーロッパでは、会議通訳者は弁護士や医者と同等の高い地位を与えられている専門職の自由業ですが、人間としての対応は全く平等です。

教育の問題と本学の教育

学長 日本とヨーロッパの高等教育の相違などについてお話しいただきませんか。

アンデルセン 先生のおっしゃられた幅広い教養教育は大変すばらしいことです。私が学生の頃は、発展の時代でした。今や日本は世界有数の先進国となりましたが、殊に若い人の間では目標を見出せずに閉塞感が広がっていると聞きます。しかし、視野を広げて、日本だけではなく世界の一人であると考えれば、可能性は限りなくあるのですから、意欲を持って学んでほし



かずえ・アンデルセン氏
(Kazue Andersen)



東北学院大学 学長
倉松 功

いと思います。

学長 日本のバブル経済崩壊も、ある意味では追いつき追い越したという慢心もあったのでしょうか。アンデルセン バブル経済の時代に世界に出てきている日本人は、世界のトップであるという構柄な態度そのものでした。本当は日本はそのようなところまでは来ていないし、もっとしなければならないことがたくさんあると思います。日本は今、ようやく普通の社会になり、基礎を固める時が来たのではないのでしょうか。

学長 おっしゃるとおりです。私の言葉で理解させていただきますと、護送船団方式の官主導の発展段階は終わったということでしょう。これからは一人ひとり自由に目標に向かって競争しながら、目的を実現する市民社会のスタートラインに立ったのだと思います。NPO(非営利団体)のような活動も今後は増えていくでしょう。少なくともNPOが公的に認められ、国や地方公共団体が援助するという枠組みはできました。

アンデルセン 無力感ではなく、これからは何か創れるという気が生まれたということは素晴らしいことですね。必要なことはその気力を育む教育です。自分でも何かを動かすことができるという自信を国民が持つようになれば、日本も動き出します。

学長 人間を育てる役割の教育を考えますと、学校と家庭の問題がありますね。日本の場合、学校を出てまだ間もない若い小学

校の先生は、親から道徳教育を含むあらゆる教育を期待されています。しかし、基本的なしつけは家庭の役割です。日本ではヨーロッパの人々のように親の教育権は憲法で保障されていません。

アンデルセン 子供に一番影響力を持つのは親なのに。親の役割を放棄するのは無責任ですね。学長 日本の道徳教育の教科書を読み、幾つかの問題点を挙げたことがあります。例えば、父親が病気になる時、母親が植物の種を植え子供がお祈りする。そのときどのようなお祈りをしますかと書いてあるのです。これは良心の自由を侵害する問いではないでしょうか。この内容を評価し指導することは、良心のコントロールを助長することになります。デンマークではどうですか。

アンデルセン デンマークでは、教科の内容や教え方については幅広い自由度が先生方に与えられていると思います。授業も急ぐことなく伸び伸びとした雰囲気です。ですから、生徒の中にいろいろな側面からの物事の見方、捉え方が養われていくのでしょうか。デンマークでは、教育学部出の若い先生もおりますが、他の分野を経験した社会人も先生になっており、このような先生はしばしば学生により大きな影響を与えることができます。

学長 そのような教育は大学でも行うことができます。英語を英文学の範疇で理解する学生とコミュニケーションのツールとし

て学びたい学生の再配分をしなければならぬと思っています。英語科や外国語学科ではなく、外国学科にしてはどうかと考えています。外国語学科とするとどうしても語学や文学になってしまいます。外国学科とすると、文学や思想、産業、あるいは歴史なども学ぶことができます。

アンデルセン 東北学院大学には幅広い人材がいっぱいいますので、十分に可能だと思います。

学長 同時に、この4月から始まった仙台圏大学による単位互換制度を充実しなければならないと考えています。そのことによって学内にとどまらず、大学間の相互教育も可能となり、学生にとって選択肢が広がり、どの大学でも希望する分野の勉強ができることとなります。また、仙台圏大学と仙台圏の産業界とのインターンシップ制度(学生が在学中に企業などにおいて就業体験を行う制度)を導入できないかどうか、仙台学長会議で提案したいと思っています。アンデルセン すばらしい構想ですね。是非実現して発展されることを期待しています。私が学んだ英文学科では何か検討されていることはあるのですか。

学長 英語は今や世界語ですので、全学生の英語能力の目標を数値化できないかと考えています。例えば国内しか通用しない英語検定ではなく、TOEFLやTOEICの何点を英語教育の目標にするとかを考えていかねばならないと思います。学生が国際的に通用する評価基準で何点だということを身につけて卒業してもらいたいというのが私の考えです。

アンデルセン 学生たちも自信を持って社会に出て行くことができますね。

EUの発展

学長 ヨーロッパにおける政治はどうですか。

アンデルセン EU(欧州連合)関

公開クリスマス のご案内

本年も、公開クリスマスを下記のとおり開催いたします。厳かな雰囲気の中での説教、礼拝堂に響き渡る壮大な演奏をお楽しみください。多くの方々の参加をお待ちしております。

第13回泉キャンパス 公開クリスマス

日時:平成13年12月7日(金)

18時30分～

場所:本学泉キャンパス礼拝堂
説教:長尾厚志牧師(日本基督教団仙台ホサナ教会牧師)

パイプオルガンの演奏や聖歌隊の合唱、キャンドルサービスなどが行われます。また、小さなお子さんにクリスマスプレゼントも用意しております。



第52回公開東北学院 クリスマス

日時:平成13年12月14日(金)

18時00分～

場所:本学土樋キャンパス礼拝堂
説教:中家盾牧師(日本キリスト教会室蘭教会、平成4年本学キリスト教学科卒業)

聖歌隊と室内アンサンブルによるオラトリオ「メサイア」の演奏やキャンドルサービスが行われます。

係の仕事数を多くしていますが、今後の進展がとても楽しみです。欧州統合の理念を掲げて、その目的に向かってゆっくり築き上げてきたわけです。急ぎ過ぎでは国民の支持を失うので、戻っては進むというように地道に一步づつ前進してきました。来年1月1日から通貨も統合されます。国際司法裁判所や国際刑事裁判所ができたことからわかるように、これからは国家主権は益々制限されていくでしょう。EUも今後いかにして理念の実現へ向けての国民の支持を強めていくかが課題です。つい最近まで日本は、欧州委員会の力を認めず、加盟国ごとの交渉に重きを置いていたが、近年その姿勢も変化しました。

学長 EUの理念を歴史的に見ると、ギリシア・ローマの文化とカトリックやプロテスタント、ロシア正教というキリスト教が、重要な根底になっています。一昨年、仙台でEUの駐日大使も同様の趣旨をお

しゃっていました。

アンデルセン 確かに事実はそのですね。しかし、公には、開かれた欧州連合の形成という立場をとっていると思います。

学長 アイルランド紛争やスペイン・バスクの個別文化の問題などがありますが、克服される問題ではないかと思えます。

アンデルセン そう思います。世界の国の数が約190カ国に増えている一方で、EUのような国家連合も増えていくでしょう。同時に主権国家というよりも連合体の枠で守られた中での自治体のような"国"の数は増えていくと思えます。学長 軍事や外交、通貨などについてはEUに委ね、その独自の文化の継承発展などは地域でということがEUをさらに豊かにしていくでしょう。

アンデルセン これからも、楽しく仕事を続けていきたいと思えます。

学長 本日はありがとうございました。益々のご活躍を願っております。





三校祖=左より押川方義、W.E. ホーイ、D.B. シュネーダー

東北学院資料室

東北学院資料室にみる足跡

学院長 田口 誠一



仙台神学校校舎



神学部教授陣(1894年)



中学部校舎正面入口

東北学院資料室が東北学院創立115周年を記念する本年5月15日を期して創設されました。場所は土樋キャンパス・ラーハウザー記念東北学院礼拝堂の地下室です。長年にわたる、多くの学校関係者による夢と念願がかなえられ、その第一歩が踏み出されたことは、限りない喜びと感謝です。このことについては、既にこの広報誌ウラノス第6号で倉松功学長によりアナウンスされておる通りです。戦前、昭和7年、この礼拝堂が奉獻された当時は、この地下室は礼拝にかかわる諸集会のための場所として作られ、使用されましたが、戦後は長年にわたり学内諸施設の不足狭隘の事情の中で学内食堂として使われ、さらに続いては計算センターの本拠となり、この度、ようやく東北学院の歴史を顕彰する場所として改めて活かし用いられることになり、本来あるべき姿から見て大きな前進です。担当部局の広報室がこの4月、まずここに移転し、今後のこの事業の発展充実に備えました。広報室は皆様ご承知の通り、毎月発行の東北学院時報、月2回の東北学院報の編纂、その他東北学院資料室の管理運営等にあたっています。この度の資料室開設のためには出村彰副学長を委員長とする資料室準備委員会の皆様の絶大な協力・策定と、これを受けての広報室職員各位を中心とする皆様の物の見事な

即時断行のチームプレーが効を奏し、願い通り5月15日にオープンすることができました。出村準備委員長の言葉をお借りすれば、『既に東北学院百年史編纂中から編集委員会一同の熱い思いは、これまでに収集してきた資料を保存しさらに展示できる場所が欲しいという願いであった。当時としても、礼拝堂地下が最も相応しいことが関係者一同共通の認識だった。この度の改修や空調施設の経費を考えると、夢のような話である』と申されています。またこの日を迎えるに先立ち、学内諸施設の充実に伴い、この礼拝堂地下室の本来あるべき姿に近づける意味でも、ここに資料室の設置という願いが再三にわたり広報室から出されていたことも事実です。すべてが大きな前進をいたしました。本来ならば5月15日を期し、公事としてのそのオープンセレモニーが挙行されるべきであったと思いますが、日程上、スケジュール的に無理であると判断いたしました。

東北学院資料室は東北学院全体に関する歴史を将来に伝承するとともに、『東北学院創立の精神』にかかわる資料を収集・保存・展示し、東北学院の発展に資することをその目的として設置されました。私達は先人が築き、遣された歴史を大きな誇りとし、これを受け継ぎ、歎びと心躍る想い出、またその苦難をもとにもできることを願っております。

ます。このことは、現在から将来に生きる多くの後輩たちへの計り知れない心の支えとして生き続けることでしょう。ただいま資料室開設の第一段階として、東北学院の三校祖(押川方義、W.E. ホーイ、D.B. シュネーダー)に関する写真や資料を中心に常設展示しております。

今後は『資料室年報創刊号』の発行が資料室運営委員会により決まりました。創立百周年記念事業の一環として内外各方面の皆様からご提供いただいた貴重な写真や資料等の数々を適宜公開し、教職員、在学生はもとより、同窓生、一般市民の皆様にもご高覧いただけるようになると思います。これには現在、東北学院中学・高等学校のシュネーダー記念室に保管している諸資料をも併せ公開していきたいと考えます。またもう一つ願いがあります。ただいま関係各位のお手許にあるこれぞと思われる関係資料につきましては、その大小にかかわらずご提供いただきたいこと、また種々の想い出、ご記憶の中にある記録等を文章に書き遣し頂戴いたしたいことです。口述だけでは貴重な歴史がやがて消滅いたします。この点既に故人になられた方々に対しても、多くこの悔みがあるのであります。私たちのこの資料室に対し、皆様の今後とも変わらぬご援助とお祈りを切にお願い申し上げます。

Interview

学生たちは、今

「努力に終わりはありません」

相澤 優子さん
経済学部商学科4年(経済学部二部経済学科より転部)
聖和学園高等学校卒業後
バスケットボール実業団を経て、平成10年4月入学



— 大学へ入学したきっかけと、その理由を教えてください。

小学校から実業団までバスケットボール一筋でやってきたので、もっといろいろな知識を身につけたいということと、プレーヤーとしての限界がやってきた時、今度は教える側になりたいと考え、教員の資格を取得しようと思ったからです。

— バスケットボール部に所属し活躍していますが、年間の活動や大会成績を紹介してください。

バスケットボールは秋から冬にかけてがシーズンです。9月から毎週試合が入っている状態で、まさにバスケー色になります。昨年、全日本学生選手権 インカレで初めてベスト4入りをしました。大学生活最後の大会でもあるので、今シーズンはもっと上を目指したいです。

— ユニバーシアードの選手に選ばれたそうですね。

昨年のインカレベスト4入りが評価されたのだと思います。ユニバーシアードは大学生選抜の世界大会なので、私の年齢で選ばれるというのは珍しいことです。これも大学に入って得たチャンスといえます。

— 部活動で得たものは何ですか。

何かを目指していくには、まず自分がしっかりしていることが前提ですが、自分一人ではここまで来られなかったという思いもあります。もちろん、挫折してやめてしまおうと思ったことは何度もありましたが、いつも前向きに考えて行動してきました。そうすると、不思議に力がわいてくるんです。

— 部活動と勉強の両立はどうですか。

忙しい方が時間を見つけて勉強しようという気持ちになります。時間が余るほどあるよりも効率がいいようです。

— 卒業後の進路は決まりましたか。

また実業団に戻ってバスケットボールを続けたいと思います。選手としてできるところまでやりたいと思ったのです。いつか自分に問いかけた時に、精一杯やってきたのなら、諦めもつくし、その時自分は別な何かをも得ていると思うのです。だから私はいつまでも努力し続けたい。

教師という仕事も努力に終わりはないと思います。成長し続けようと思ったら、いくらでも成長していけるし、そうしなければ生徒の見本になれないのですから。だから、教師には、自分自身が人に何かを教えるのにふさわしい器になれたときになると思います。

— 来年卒業を迎えるわけですが、本学の後輩たちにメッセージをお願いします。

何かを極めたいと思うのなら、自分自身に厳しくならなければ達成できないと思います。努力に終わりはないのです。

オープンキャンパス に参加して

— 高校生の声 —

8月3日(金)『オープンキャンパス』が開催されました。会場となった泉キャンパスと多賀城キャンパスには約3,000人も高校生や一般の方々が訪れ、キャンパス内を自由に見学したり、模擬授業に参加するなど、「大学生」を体験しました。訪れた高校生たちはどのようなことを感じたのでしょうか。

キャンパスを見学してみて、どうですか？

—「最初は、広すぎてどこから見学しようか戸惑いましたが、スタッフの大学生が、おもな施設を案内してくれたので、とても助かりました(県内男子高校生) —
—「自分が通っている高校と比べて、施設がとてもきれいで設備も整っていて、すごい! 何もかもここで出来そう!(県外女子高校生)



大学で何を学びたいですか？

—「日本史、特に戦国時代に興味があるので、文学部の史学科に入って、もっと深く学んでみたいです。それから、大学でどんな人たちと出会えるのかも楽しみです(県内女子高校生)

大学で何をしたいですか？

—「高校時代の3年間は、部活ばかりの毎日だったので、大学ではもっといろいろなことにチャレンジしたいです。バイトもしたいし、サークルにも入りたい、もちろん勉強もですけど...」(県外男子高校生)

協奏、そして共創へ

仙台圏の単位互換がスタート



今年(2001年)4月から単位互換制度が始まりました。1997年12月17日に開催された第1回仙台学長会議を端緒にして、以後準備委員会が『協定案』を作成し、審議を重ねてきました。そして2000年9月25日に「学都仙台単位互換ネットワーク」に関する協定書及び覚書が12の大学と5つの短期大学により締結・調印されることになりました。

今年4月における単位互換学生の受け入れは11の大学と5つの短期大学が行い、履修学生総数(後期分を除く)は約70名でした。受講科目は芸術、歴史遺産、情報、医療福祉関係などひとつの大学だけでは提供できない広範な分野にわたっています。

本学の単位互換学生(特別聴講学生)については、前期には2大学へ2名が受講し、3大学から5名を受け入れ、後期には2大学へ2名を派遣し、2大学から2名を受け入れる予定になっています。まだ多いとは言えない人数ですが、初年度ということと、本年度の本学開講科目が1、2年生中心の教養教育科目に限られているという事情が影響したものと考えられます。特色ある専門科目の公開が予定されている次年度以降、ますます多くの学生がこの制度を利用するものと期待しています。また、今後、この制度が学生の利便性を高めるよう履修依頼時期などの点で改善され、さらに意欲ある学生に対して多様な学習機会を提供することによって、現代社会に対応できる有能な学生の育成に寄与していくものと期待されます。

大学院文学研究科英語英文学専攻の単位互換
— 大学院英文学専攻課程協議会(英専協) —



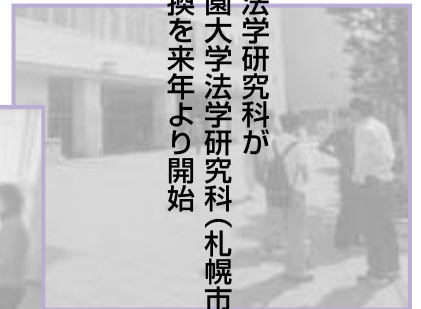
大学院文学研究科英語英文学専攻は、青山学院大学・法政大学・上智大学・明治大学・明治学院大学・日本女子大学・立教大学・聖心女子大学・東京女子大学・東洋大学・津田塾大学の在京11の私立大学と「大学院委託聴講生に関する協定書」を結び、大学院英文学専攻課程協議会を組織し、「委託聴講制度」という単位互換制度を昭和48年に発足させ、間もなく30周年を迎えようとしています。

加盟大学の大学院英文学専攻課程(英米文学課程もしくは英語英文学課程を含む)に在籍する学生は、必要単位の一部を他の加盟大学の大学院において取得することができます。他大学で取得できる単位数は所属大学院が決定します。委託聴講生の聴講料については、協定校の協議により、それぞれの大学においてこれを定めています。

委託聴講生の便宜のために、毎年度始めに加盟大学の共通時間割を作成し、図書館の利用も認めています。年1回学生による研究発表会が開催され、大学院スタッフがアドバイザーとして各加盟校から派遣されます。このような形で、加盟大学間の学術的提携と交流が促進されています。

本専攻では、一昨年度は明治学院大学、昨年度は法政大学より各1名受け入れましたが、今年度は青山学院大学より1名、委託聴講生を受け入れています。現在3科目を履修中です。本専攻は、もはや、関東圏・首都圏の大学院と言っても過言ではありません。

大学院法学研究科が
北海学園大学法学研究科(札幌市)と
単位互換を来年より開始



北海学園大学と本学との総合定期戦は、昭和30(1955)年には始まり、今年で47回目を迎えました。去る6月15日～17日に札幌で熱戦がくりひろげられたことは、記憶に新しいところでもあります。こうした両大学の親密な交流を、スポーツの面だけではなく学術面にも及ぼすべく、その初めての試みとして、このほど北海学園大学法学研究科と東北学院大学法学研究科は単位互換に関する協定をとり結び運びとなりました。

これによれば、両研究科の学生は、相互に相手研究科の授業科目を履修し、単位を修得することができます。修得できる単位は、10単位までで、受入学生数は各年度5名以内となっています。検定料、入学科、授業料等はお互いに徴収しません。協定を実効的なものとするためには、北海学園大学が Semester 制をとっているのに本学が通年制であるなど、今後工夫を要する課題もありますが、例えば1 Semester、または1年間、海峡を越えて札幌の地で(あるいは逆に仙台で)勉強したいという学生がこの制度を大いに活用してくれればよいと思います。

一昨年の総合定期戦の際、第45回を記念して北海学園大学の校庭に桜の植樹を行いました。この若木と一緒に、単位互換制度もすくすくと成長することを期待します。



「地域性重視の法科大学院」設置へ

『法科大学院』ってなに?の方もいらっしゃるでしょう。それもそのはず、これはまだ日本にない、2004年誕生の新型大学院だからです。この大学院では、弁護士・裁判官・検察官のこの3つをあわせて法曹ほうそうといえます。の養成のために、3年の職業教育をします。そして、原則としてこの教育を終えた人だけが司法試験（これも新しく衣替えします）を受けられるようになります。

ではなぜ専門の大学院で法曹を育てる仕組みを新設するのでしょうか。まず第一には、これまでの司法試験の一分勝負だけでは、質を維持しながら、今後必要になる大量の法曹を育てられないという事情があります。また、外国語、歴史学、経済学、工学、心理学など、学部時代に法学以外の勉強をした人も広く迎え入れ、多様な法曹を育てたいということもあります。

本学法学部では昨年7月から正式に検討をはじめ（本誌6号の関連

記事参照）今年6月には結論に達しました。弁護士過疎の解消など東北の諸地域の要望にこたえる、地域性重視の大学院を設置すべきだ、という内容です。

月14日には公開シンポジウム（同日の基調報告文をご希望の方は、nakamura@tscc.tohoku-gakuin.ac.jpまでお申し出ください）を開き、「地域性重視の大学院」という基本構想、そしてそれをどう現実化していくかについて意見交換を行い、幸い本学の多くの提案が好意をもって受けとめられました。

今後も、教員の確保、教育内容・方法の練上げ、学費負担軽減策など多くの課題が残っています。しかし、こうした課題を解決し、2004年に法科大学院が設置できるように努力をしていきます。法科大学院設置によって、本学は地域への責任を果たし、地域から再評価される大学にもなるはずだと考えています。

第22回
東北学院大学
オープン・カレッジ
のご案内

本学社会福祉研究所の主催するオープン・カレッジが、『福祉社会論』 変貌する福祉社会の今と行方 と題して、学内外の10名の講師による講義形式で開催しています。参加をお待ちしております。

日程

平成13年9月27日

10月4日 ・10月11日

10月18日 ・10月25日

11月1日 ・11月8日

11月15日 ・11月22日

11月29日 の10講義

時間

18時30分～20時00分

（9月27日と11月29日の終了

時間は20時20分）

場所

本学土樋キャンパス8号館4階842教室

対象

本学学生並びに仙台市及び周辺の地域住民の方々

受講料：1,500円（講義報告書及び郵送料を含む10講義分）

【問い合わせ先】

社会福祉研究所

TEL.022-264-6362

FAX.022-264-6530

E-mail:

shafuku@tscc.tohoku-gakuin.ac.jp

大学と家庭をむすぶ

後援会総会・地区後援会を開催



快晴に恵まれた7月7日、在学生のご父母を対象とする後援会総会を泉キャンパスで開催しました。当日は1,300名を超える出席者を迎え、総会では大学の近況報告や年間の活動方針が説明されました。また、大学礼拝からはじまる自由選択の大学開放プログラムには「多発する少年犯罪と少年法を考える」のテーマによる公開講座やパイプオルガンコンサート、学科別懇談会、相談コーナー、施設開放など、多数ご出席いただくことができました。

当日、出席された皆様からの感想には、「すばらしい環境の中で学習していることがよくわかりました」「教

職員が親切に対応してくれて参考になった」などの好意的な意見が多く寄せられましたが、「誇りを持って卒業できるような質の高い教育を目指してほしい」「特にITと英語教育に力を入れてほしい」「人件費や経費削減を考え、学費を抑えてほしい」などの意見も寄せられ、大学と家庭の連携を深めていくことの重要性を再確認することができました。

続いて、夏期休暇期間を利用して、北は北海道6都市から南は静岡県浜松市までの34会場で地区後援会が開催され、多くのご父母の皆様と教職員との懇談の機会を持つことができました。





アルスター大学を訪問

学長 倉松 功

8月上旬、北アイルランド・コレイン(Coleraine)の壮大な緑のキャンパスに2万人を超える学生を有するアルスター大学の本部を、今回も私的に訪ねました。対応してくださったのは、その名をこの4月から学芸学部 Faculty of Artと変えたばかりの同学部の学部長B. ウェルチ(Welch)教授とビジネス・マネジメント学部ビジネス学科主任、情報学部コンピュータ数学科主任の方々です。一通り大学全体と上記二つの学科についての現況を伺いました。特に情報科学関係の充実が印象に残りました。昼食前のキャンパス案内では、ゆったりとした個室と、4人で共同使用するキッチン・ダイニング・ランドリー・娯楽室の備わった二階建ての学生寮などを見学しました。今秋も本学から英文学科の学生が一年間留学することになっていますが、アルスター大学では引き続き学生を送って欲しいこと、本学

の学生を高く評価しているとのことでした。

昼食を挟み、アジア・日本・中国のこと、そして、アジアの東北、日本の東北地方への質問が本学との関わりにおいて出されました。

アイルランド文学専門の学芸学部長ウェルチ教授が最近出版されたJ・スウィフトのエッセイ集を念頭において、北アイルランドの経済的繁栄と将来について、とりわけ技術革新と紛争との関わりにおけるアルスター大学の役割について私は質問しました。後者について言えば、アイルランド紛争の契機となったロンドン・デリー城内のメイン・ストリート行進の直前の訪問故に、その緊張した雰囲気は私にとってよい体験でした。教授たちはアルスター大学の平和研究所が昨年オープンし、日本を含め世界各地から期待を反映した反響をえている由でした。現代はコソボ、パレスチナ、北アイ

ルランドと並ぶ地域紛争の長い歴史を経験しているだけに、その歴史に対応した若い世代の取り組みに希望を寄せていました。アイルランド共和国軍(IRA)は講和条約がうたう武器の放棄は守っていませんが、武器の製造は中止するという点まで歩み寄ったことを強調するデリー・ジャーナル(カトリック側)とIRAの武装解除の約束が今回の交渉でも約束されなかったと失望を伝えるロンドン・タイムズ(イギリス政権プロテスタント側)の記事の違いを面白く読みました。ともあれ、コレインの大学と一般市民の平静な様子を見聞できたことは一つの経験でした。それとともに北アイルランドの自然の美しさに魅せられました。案内役の国際交流センター事務長グリーン博士はコプト語の専門家で、ドイツ、ゲティンゲン大学で考古学を学んだ由、2日間にわたる各種の話は楽しいものでした。



左より、グリーン事務長、ウェルチ学部長

大学院より

Graduate School info.

文学研究科 スタッフの充実

英語英文学専攻の専任スタッフとして、2人の新進気鋭の言語学者が英語学部門に加わりました。統語論(文や句の構造や原理を扱う分野)の阿部潤助教授と音韻論(音構造や原理を扱う分野)の那須川助教授です。

阿部助教授はアメリカのコネテ

ィカット大学、那須川助教授はイギリスのロンドン大学から言語学のPh.D(博士号)を取得し、国際的に活躍しています。国内外を問わず、今では、博士号が学者としての到達点というよりも出発点とされるようになりましたが、それだけに、院生に与える刺激は大

きいと言えます。

これを機に、英米文学と英語学両部門ともどもに、研究者や教員の養成と現職教諭の専修免許取得コースなどの提供を目指し、より一層のスタッフの充実を図っていききたいと思います。

経済学研究科 外国人留学生の活躍

大学院の講義の受講者に2人の中国人留学生が在籍しています。講義も十分理解し、外国の知識も豊富です。先日、あるテキストの翻訳が正しくなされているかどうかを2人に課したところ、重要な国際的基準の翻訳ミスを見つ

けることができました。

1人は中国に帰国し、大学の教員になることを希望しています。現在中国が進めている『社会主義・市場経済システム』は、海外から帰国した留学生がその中核となつてい

役割を果たしていくものと考えられます。他方、我が国の現状を考えると、危機感や責任感の欠ける学生が多くなってきており、外国人留学生の考え方や生き方などが、よい刺激となってくればと願っている次第です。

法学研究科 法学研究科(前期課程)合同研究室がスタート

本年4月から、土樋キャンパスの大学院棟が7号館(5階建て)に移転し、広いスペースが確保されました。それに伴い、各研究科前期課程の専攻ごとに合同研究室を持つようになりました。

昨年度までは旧大学院棟のいわゆる個室研究室(定員2名)に入れない院生は、7号館の一部に研究科、専攻の別を問わず同居せざるを得ない状態でした。専攻ごとの合同研究室が発足したことによって、前期課程院生の勉学環境は大幅に改善されたか、少なくとも、その基礎が捉えられたということができ

ます。各合同研究室には、机、椅子、本棚はもちろん、ロッカーも配備されています(写真参照)。また、中央には、懇談や作業ができるテーブルも置かれています。今後さらに整備が進められる予定です。この合同研究室は、大学院研究生も利用することができます。

法学研究科の合同研究室に關しても、他大学法学研究科の合同研究室に引けを取らないものではないかと思われ

ます。若い院生がここに集うことによって、その勉学と友情とが一層深まることが期待されます。

後期課程院生は、従来どおり、前記個室研究室を利用します。



工学研究科 工学系大学院の趨勢と本学工学研究科の役割

日本における工学系大学院への進学者数は年々増大しているのが現状です。このような傾向は世界的にも同じですが、特に日本においては科学技術基本法が制定され科学技術基本計画が策定されて以来この趨勢が強まりました。

高度な科学技術を国家存続の基礎と考える日本の社会が、これからはますます大学院工学系専攻の修了者を必要としていることは事実です。

本学の大学院工学研究科への入学志望者も年々増加しています。

博士後期課程では国費留学生も学んでいます。前記の社会的要請に応えるために本学の工学研究科の役割は重要です。工学研究科で学ぶ学生諸君にはこのことを自覚してもらい、研究と勉強に取り組んでもらっています。

人間情報学研究科 学ぶ幸せ

仙台の春の訪れは遅い。それでも5月に入ると急速に暖かくなり、泉キャンパスの木々は次々と芽を出し、美しい若葉になります。陽光を浴びた青葉若葉の緑が窓に映え、開けた窓から緑のそよ風が静かに吹き込

んで、研究に専念する院生諸君の疲れを癒しているようです。また木々の遅い成長は見る人にその強い生命力を感じさせるようです。

院生諸君の研究室にはそれぞれコンピュータが数台ずつ完備されて

います。自然の躍動を体一杯に受けながら整った環境で学ぶ幸せは、泉キャンパスならではの感を強くします。草木が芽吹くように今年も修士博士の学位取得者が生まれることを心待ちにしています。

学部より

文学部

伝統と革新 —— キリスト教学科のいま

仙台神学校(1886-1891)東北学院神学部(1891-1937)の伝統を受け継ぎ、キリスト教学科が文学部に創設されて(1964)2004年で40周年を迎えます。これまでの歩みは決して平坦なものではありませんでしたが、114名の卒業生を送り出し、牧師や伝道師、宗教科主任・聖書科教師ばかりでなく、社会福祉、その他の分野で全国的に活躍しています。卒業生の数は旧神学部はまだ少し及ばないとはいえ、近づきつつあると言っているいいでしょう。最近では仙台市内をはじめ、東北地区(宮城、福島、山形)の教会で仕事をしている人が増えています。東北伝道という草創からの願いが今も生きています。我々キリスト教学科の働きが目に見えて、これほど幸いなことはありません。しかし、我々キリスト教学科とその教員の務めは、それだけにとどまりません。毎日の学内礼拝を担い、キリスト教学の講義を通して創立の精神の保持と展開に積極的役割を果たすべく期

待されています。このことは今日、様々な点で一層重要になりつつあるように思われます。というのも、大きな時代の転換点にあたって、現代を生き抜く確固たる人生観、あるいは倫理や哲学がいたるところで求められているからです。現代の世相は我々にそのことを示唆してはいないでしょうか。むしろキリスト教にすべての問題の答えが用意されているわけはありません。しかしここに、新たな世紀、我々の進むべき方向が示されていることは確かです。我々はキリスト教の立場からこの方向性を提示し、批判的対話を通して文化の発展と成熟のために貢献したいと願っています。キリスト教学科も昨年から一部AO入試も採用しました。ご理解、ご支援を心からお願いいたします。

輝く教育・研究 文学部教授 佐藤司郎

これからの教会とバルトの教会論
20世紀を代表する神学者の一人にカール・バルト(スイス1886-1968)がいます。大著『教会教義学』の著者として、またナチス・ドイツにおける抵抗運動(教会闘争)の指導者として知られています。新しい世紀に入っても大きな影響を保っており、研究も盛んです。このバルトに対しても、近年、そのユダヤ人観を問う批判的問いが投げかけられています。戦後ドイツの神学界の焦眉の問題の一つは、ユダヤ教とキリスト教の関係の問題です。まさに『アウシュヴィッツ以後』の状況の中で、ユダヤ人排除に加担したキリスト教の在り方が厳しく問い直されてきたわけです。キリスト教はユダヤ教といかに違うか、ではなく、ユダヤ教との関係の中で自らの本質をとらえるよう求められています。バルトにも向けられたこの問いは、『ゲッティンゲン大学 Eブッシュの『一つの契約の虹のもとで-カール・バルトとユダヤ人1933-1945』(1996)でほぼ答えられたといってよいと思いますが、ひとりバルトの無罪証明でこの問題は片づきません。ユダヤ人との関係の問題はこれからも重要な神学的視点であり続けるでしょう。独自にユダヤ人との連帯の中で福音をとらえようとしたバルトは、その教会論においても、我々の神学的思索に光を与えています。

経済学部

経営学科でインターンシップがスタート

今夏、本格的な制度の導入に先立ってインターンシップ・パイロットプログラムが経済学部経営学科の学生を対象に実施されました。インターンシップは、「職業教育」、「人材育成」、「産学の連携・交流」の一環として、国の支援のもとに近年多くの大学、企業が積極的に導入しつつある制度です。革命的ともいえるIT(情報技術)の進歩によってもたらされた急速なグローバル化の進展と国際競争の激化の中で、日本経済及び企業を取り巻く環境はいよいよ厳しさを増しつつあります。政府の経済運営、企業経営のあり方が問われていると同時に、学生諸君にとっても従来の「職業観」、「労働観」の変革が迫られているといえるかもしれません。「専門的な知識・技能」と

ともにあらたな「企業家精神」、「起業家精神」が求められている時代であるといってもよいでしょう。その意味で、インターンシップを通しての「現場」での職業体験は、大学生活では経験できないさまざまな「驚き」と「発見」の機会をつくりだし、ひいては「学ぶ」との意義と必要性の再発見につながると期待されます。それは、大学をこれまでとは違った側面から「活性化」することにもなるでしょう。むしろこうしたインターンシップの重要性は一部の学科に限られません。より多くの学生諸君に同様の機会を提供するためには、予想されるいくつかの問題(特に、学生の希望と企業の受入れ条件とのマッチング)に対応する仕組みを用意しなければなりません。

が、経営学科での経験を生かし、早期にインターンシップが全学的な制度として定着することを願っています。

輝く教育・研究 経済学部助教授 松村尚彦

株価形成に関する実証的研究
株式市場では、どうしてもバブルが発生したり破裂したりするのでしょうか? この問題は、国民経済にも多大な影響を与える重要な問題ですが、学問的にはいまだ十分に解明されているとはいえません。そこで私は、従来の経済学の枠組みだけでは捉えられない「投資家の非合理的な行動」に着目しながら、この問題に取り組んできました。またこの研究と関連して、企業と共同プロジェクトを組み、資産運用モデルを構築する仕事も手がけています。

法学部

法科大学院時代に法学部教育はどうなるのか

当学部は、現在「法科大学院」の設置に向けた検討を行っています。「法科大学院」そのものについては本誌8ページの記事を参照していただくとして、ここでは、各大学が「法科大学院」を設置する場合でも、設置しない場合でも、法学部の学部教育がどうなるのかについて、簡単に述べることにします。

いずれの場合においても、法学部で行われる学部学生に対する教育の内容と方法とが、現在と比べて大きく変わらざるを得ないことは確実です。「法科大学院」という制度がスタートすると、法律家を養成する教育は、主として「法科大学院」が担当することになります。その場合の法学部の姿については、予測する人によって異な

りますが、「法科大学院」進学準備のための専門的な法学教育、公務員を目指すための専門的な法学教育、民間で必要とされる一般的な法律知識の教育、卒業後の多様な進路を前提にした教養的な専門教育、のいずれか、あるいは、これらを組み合わせた内容となるのではないかとされています。

2000年度入学生から当学部が導入している「コース制」は、上記のような変化の時代に対応するのにふさわしい仕組みです。その意味では、ある程度先の見の明があったとは言えるかも知れません。しかしそれでもやはり、「法科大学院時代」に合わせて、カリキュラムを大きく見直す必要があります。私たちは、これまでも学部学生の

教育に、熱心にかつ効果的に取り組んできましたが、より有効な教育内容と方法を目指して、今後もなお一層の努力を重ねてゆきます。

幅広く教育・研究 法学部教授 齋藤 誠

世論のありかを科学する

民主主義社会では、「民意」とか「世論」に従う政治が是とされています。しかし、民意や世論の確定は決して容易ではありません。

選挙や世論調査は、民意や世論を政治に反映させる道具として発達してきましたが、同時に、しばしば勝手な解釈を加えられ、悪用、乱用、誤用されてきました。

私の研究テーマの一つは、選挙や世論調査の結果解釈における、様々な曲解パターンを析出し、その危険を広く指摘することです。

カウンセリング・センター主催 秋季公開講演会

フォーカシング
—自分らしさってどこにある?—

カウンセリング・センターでは、平成13年11月30日14時20分より、土樋キャンパス8号館5階押川記念ホールにおいて、公開講演会を開催します。今回は、大正大学の日笠摩子先生を講師にお迎えし、フォーカシングという技法を通して、自分自身を見つめなおすことについて考えてみたいと思います。どなたでもどうぞお気軽にご来場ください(参加費は無料です)。

工学部

学科名称変更と産学連携の促進

工学部は、2002年で創設40周年になります。現在まで機械工学科、電気工学科、応用物理学科、土木工学科の4学科体制で、学問の進歩や社会のニーズの変化に応じて、カリキュラムの改正や講義内容の改善等を行ってきました。しかし、各学科での教育と研究の内容や目的等をより判りやすくすること、更なる急激な社会変化等に適切に対応するためにも学部の改組転換が必要です。

この第一歩として、2002年4月より学科の名称を、創造性豊かな機械技術者の教育を目的とする機械創成工学科、IT革命の担い手の教育を目指す電気情報工学科、教育の根幹を物理学に置き情報処理技術とその物理学への展開をも重視する技術者教育を目指す物理情報工学科、及び建設保守技術のほか情報処理や環境問題等に対処できる技術者

の教育を目指す環境土木工学科の4学科へと変更する予定です。

工学部の研究と教育はキャンパス内だけでは不十分です。企業が生産活動で抱えている課題を知り、それを産学の共同研究として推進するとともに、現在話題になっているインターンシップ制度を工学教育へ導入する上でも、産学連携活動をより一層推進しなければなりません。

本年6月7日、仙台国際センターで開催された、社団法人みやぎ工業会等主催の第30回産学官交流大会の「産学連携パネル紹介」に参加して、本学部4学科で行われている主な研究テーマと主要な教育研究用設備及び試験装置のパネルの展示と説明を行い、大変好評でした。

本学部では、産学連携を促進するために、その窓口となる組織を作るために、産学連携促進セ

ンター準備委員会を設置して検討に入りました。

幅広く教育・研究 工学部教授 井門秀秋

磁性体の研究

12年前に海外研修でアメリカのピッツバーグに行かせていただき、そこでみつけた物質群を最近の10年間研究しています。それらは、希土類元素(14種類ある)とコバルトとホウ素を含んだ約40種類の磁性体で、当時はほとんど研究されていませんでした。

最初は全体の磁気的性質を系統的に調べ、現在ではこれらの中で特に興味のある化合物について掘り下げた研究をしています。これらの中には、永久磁石になるものや、磁気センサーに適するものや、極めてめずらしい磁気構造を有するものなどが含まれていますので、基礎と応用の両面から国の内外のグループと共同研究を進めています。

Topic

工学部の4つの学科が 名称変更

21世紀初頭のキーワードは、「環境」、「情報」及び「制御」と言われています。工学部では、それぞれの学科の基礎力を持ち、その上で3つのキーワードに代表される知識を身につけた技術者を養成するために、平成14年度から機械工学科、電気工学科、応用物理学科、土木工学科が機械創成工学科、電気情報工学科、物理情報工学科、環境土木工学科へとそれぞれ改称することになりました。機械工学科ではカリキュラムも改正し、「創成系科目」の充実を図るとともにコース制を導入します。

学部より

教養学部

オープンキャンパスに向けて

教養学部のある泉キャンパスを会場に、オープンキャンパスが開催されました。本年で3回目とまだ新しい試みですが、来年の受験を控えた高校生を中心に多数の来訪者があり、本学にとって重要なイベントになってきています。

このオープンキャンパスを機会に、教養学部では学部紹介のパンフレットを作ることにしました。この原稿を書いている段階では、印刷を一部進めているところですが、ユニークで楽しいパンフレットです。というのも、新しい試みとして、このパンフレットは学生が中心になって作りました。オープンキャンパスに来訪する高校生に興味を持ってもらうには、教員より年齢的に近い学生の方が、感覚的にフィットするものが出来ると期待されます。そこで、人間科学、言語文化、情報科学の

各専攻ごとに数人の学生に集まってもらい、製作・編集を依頼することになったわけです。ベースカラーを人間科学専攻は赤、言語文化専攻は緑、情報科学専攻は青というところだけは基本線として申し合わせ、紙面の内容、デザイン、説明文などは専攻ごとに異なってもかまわない事として、自由に考えてもらいました。その結果、3専攻それぞれに全く異なったアイデアが盛り込まれ、カラフルで変化に富んだ紙面となりました。

このパンフレットが、オープンキャンパスに来訪する人々にどのように受け止めてもらえるか、大変楽しみです。さらに、各地で開かれる入試説明会や、大学見学に訪れる高校生などにも配られる予定です。これによって、教養学部がより親しみやすい存在として理解されることを期待しています。

輝く教育・研究 教養学部教授 伊藤 春樹

意味論 (セマンティクス) 思想表現の謎に迫る

人を傷つけるのも、またその傷を癒すのもことばです。やさしく手を握っているだけでなくさめになるのですから、この場合には必ずしもことばを必要としません。ことばなしにはできないことの典型が思想の表現でしょう。「わたしの隣にキリンはいない」という考えをことばを使わずに表現できますか。ことばのこの側面を研究するのが意味論です。この研究領域は哲学と論理学と言語学、さらに最近では認知科学にまたがっています。



COLUMN
WELL

オーディオ・ ビジュアルセンター の活動報告

年2回(夏・春)開催の英会話集中訓練コースは、7月26日から8月10日までの土日を除く12日間、泉キャンパスで行われました。17回目を数える今回は、講師陣に英語を母国語としないフランス・日本人の先生にも加わっていただきました。また、10月18日に兵庫教育大学の二谷廣二教授を講師に迎え、「認知心理学が英語学習に何を教えてくれるか」と題して、公開学術講演会が土樋キャンパスで開催されました。

国際交流センターより



夏期留学

アーサイナス(アメリカ)での夏

7月26日から8月28日まで、協定校のアーサイナス大学への夏期留学が行われました。現地からの様子を、文学部英文学科3年生の高安順一さんにレポートしてもらいました。

私たちは今、7月26日～8月9日までの約2週間の日程で、4年生1名、3年生10名、2年生13名の計24名でペンシルヴェニア州フィラデルフィア近郊のアーサイナス大学に来ています(8月5日現在)。こちらでの生活は、日本で考えていたよりも暑くなく、自然も豊富で過ごしやすい毎日を送っています。アーサイナス大学では次のプログラムを行ってきました。

- 7月27日(金) 大学スタッフによるオリエンテーションとカレッジヴィル(町)の案内。オープニングセレモニー:英語での自己紹介では皆緊張しました。
 - 7月28日(土) 授業開始。
買い物 King of Prussia Mallにて日本では見たことがない巨大な店でした。
 - 7月29日(日) ピクニック:スタッフの親類の家で、本場のピクニックを味わいました。
 - 7月30日(月) 授業:アメリカの授業は、自分の意見を発言する機会が多く大変でした。
 - 7月31日(火) 授業。
ジャパナイト(Party)の準備:ジャパナイトとは日本の文化などを紹介する催しです。
 - 8月1日(水) ジャパナイト:午後7時からジャパナイトを行い、現地の学生や子供たちとコミュニケーションをとることができました。
 - 8月2日(木) ランカスターへの旅:Amishという厳格で無抵抗主義の教義をもつ人々のいる土地へ行き、質素な暮らしぶりなどを見学しました。
 - 8月3日(金) 授業。 Dinner Visit.
 - 8月4日(土) 再びMallへ。 Dinner Visit.
 - 8月5日(日) 教会の礼拝に出席。
Dinner Visit:3～5日2、3人に分かれ、Dinner Visit(夕食への招待)を受けました。それぞれに緊張していましたが、皆口々に「よかった!」とっていました。
- その後は8月9日まで、本場のベースボールを見るなどアメリカを満喫し、引き続きホームステイとアメリカ国内旅行に入ります。この留学経験が自分の将来の糧となるよう残された期間を有意義に過ごしたいと思います。

国際交流協定校

Ursinus College アーサイナス大学アメリカ)/Franklin and Marshall College フランクリン・アンド・マーシャル大学(アメリカ)/Fachhochschule Wiesbaden ヴィースバーデン大学(ドイツ)/Pyongyang University 平壤大学(韓国)/Nankai University 南開大学(中国)/University of Durham ダラム大学(ギリス)/University of Ulster アルスター大学(ギリス)

問い合わせ先 国際交流センター事務局

TEL 022-264-6425/6404

E-mail: ICO@tscc.tohoku-gakuin.ac.jp

International info.

研究所・センターより

『今秋の催し物のご案内』

キリスト教文化研究所

本研究所の主な活動は、キリスト教文化の研究・指導・調査、キリスト教文化に関する文献と資料の収集、定期刊行物『キリスト教文化研究所紀要』の発行、研究会・学術講演会・公開講座の開催などです。

学術講演会は39年間にわたり実施しており、今年度は第43回で、11月16日に開催します。演題は「P. ティリッヒの学問体系論」で、講師は京都大学大学院助教授の芦名定道氏です。

公開講座「キリスト教文化講座」は毎年10月に5回実施しています。今年で20回目を迎え、10月16日「人権とキリスト教」(西谷幸介)、19日「William Wilberforce: 奴隷制度廃止論者と道德改革者」(D. マーチー)、23日「ヨブ記 神顕現はいかなる解決をもたらしたか」(38章-42章)(永井義之)、26日「古典古代文化とキリスト教」(平田隆一)、30日「21世紀の讃美の歌をめざして『讃美歌21』の神学的検討」(原口尚彰)というテーマと講師陣で行います。いずれの催し物も、詳細は下記までお問い合わせください。

問い合わせ先 キリスト教文化研究所
TEL 022-264-6401

Institute for Research and Center info.

図書館より

アウグスティヌス『告白録』ミラノ刊・1475年

アウグスティヌス『告白録』の初印行は、ドイツのシュトラスブルクにおいて1465年から1470年の間にJ.メンテルンによって刊行されていますが、本書はミラノのヨハン・ボヌス印行のもので、1475年にイタリヤ地方では最初に刊行されたものです。この印行はわずか三点だけしか刊行物がなく、本書が主刊行の書であったようで、大変貴重なものであると思われます。国内では本学の他には所蔵されていません。

著者アウグスティヌスは紀元354年11月13日、ローマ帝国の属州、北アフリカのヌミディアの小都市タグASTEに生まれ、若き日カルタゴに遊学し、青年期の多感にして肉欲の力に抗し難き葛藤の中で、マニ教の虜となり、他方においてキケロの『ホルテンシウス』(哲学のすすめ)に出会い、この書によって理性に目覚め、真理の探究を促されます。カルタゴでの勉学の後、同地並びにローマで修辞学を教え、384年秋にはミラノの国立修辞学校の修辞学の教師となりますが、ミラノ教会の司教アンブロシウスに出会い1386年8月キリスト教に回心。その秋、教師を辞し、翌387年4月復活祭の夜(24日-25日)アンブロシウスによって洗礼を受けキリスト教徒となります。

『告白録』は回心に至るまでの心的葛藤と苦悩を吐露し、神の前に罪を告白しつつ、自らの「精神の内的発展」を筆にしたものであって、神の認識にかかわる記憶論、学問論、時間論、創世記解釈を含んだ全13巻からなる自叙伝風の書物です。この書は世に出るやたちまち多くの人々の心を動かし、古典中の古典と称され後世に伝えられ今日に至っています。

受洗の翌年故郷タグASTEに帰ったアウグスティヌスは、391年ヒッポの司教ワレリウスに懇願されて司祭となり、修道院を設立、396年には司教となりますが、ストア思想、懐疑論、新プラトン派の哲学など、そうした思想遍歴の経験とその理論は、聖書の説く真理に止揚され、その神学にはギリシャ・ローマの哲学と使徒時代以来のキリスト教の教義との総合が認められます。特にパウロの信仰、神学思想の影響の下に、ドナティスト論争やペラギウス論争などを通して「恩寵の神学」の形成に貢献しています。

晩年は、429年ゲルマン民族の一種族ヴァンダル族が北アフリカに侵攻しヒッポの町を包囲するという激動する歴史の中で、430年8月28日同修道院において波乱に満ちた生涯を閉じています。同僚司教ボッシディウスは「かれは神の貧者として、残すものは何も持たなかったが、教会の図書館のなかにあるすべての書物を後の人々のために注意深く保存するように繰り返し命じた」と伝えています。この面での貢献も大きいです。

主著には『告白録』の他に『キリスト教の教え』『三位一体論』『神の国』『自然と恩寵』『恩寵と自由意志』『キリストの恵みと原罪』などがあり、後の中世ヨーロッパの神学のみならず宗教改革の神学にも大いに影響を与えています。

問い合わせ先 図書館事務局
TEL 022-264-6491

Library info.





就職部より

自問自答し書き出してみよう

6月、「3年生を対象としての就職準備のためのガイダンス」を開催しました。ガイダンスの中心は、「今日までの人生を振り返り、社会との関わりの中で自分がいかに多くの人々に支えられたかを考え、今後は社会を支えていく自覚を保持しつつ、将来の職業人としての生き方」について考えることです。夏期休暇中の課題として、特に就職活動の原点ともいえる「自己分析」はなぜ大切なのか、「自己分析」とは、自分の性格適性、関心、興味、能力の面で「自分自身」について理解を深めることです。すなわち、自分は何ができるか何ができないか、どんな興味や価値観を持っているのか、将来どのような人間になりたいのか。それを実現するために

どんな職業を選択し、就けばいいのとか自問自答しつつ自分の姿やイメージを作り上げ、自分のことを書き出しておくことなのです。

企業側の採用形態も多様化し、求める人材は厳選され、ますます厳しい就職環境にあります。それに対応するためにも、早い時期からしっかりとした職業意識の醸成は大切なことです。

自ら目的意識を持って学び、様々な活動を通じて自分を豊かに高めたいならば、最適な選択が獲得できると信じます。勇気を持って悔いのない活動をしてください。

最後に一言、就職課の積極的な活用を!

問い合わせ先 就職課
TEL.022-264-6481

入試センターより

AO入試(A日程)はじまる

AO入試(A日程)第一次選抜への出願が8月29日からはじまっています。9月25日までの出願者数は次のとおりです。なお、A日程の最終出願締切日は10月16日までのです。(カッコ内は募集定員)

文学部 英文(昼)100名 英文(夜)1名

※2名(夜)2名 (20名)

経済学部 経済(昼)45名 経済(夜)13名

経営(昼)23名 経営(夜)4名

法学部 法律35名

教養学部 人間科学53名 言語文化519名

(情報科学)

工学部 機械創成12名 電気情報10名

物理情報 環境土木10名

第一次選抜でA・B・Cの評価を受けた方は第二次選抜に出願できます。第二次選抜は、11月21日に行われ、最終的な合格は11月30日です。

また、AO入試(B日程)第一次選抜への出願期間は、11月28日から12月4日までのです。

問い合わせ先 入試課
TEL.022-264-6455



東北学院大学
土樋キャンパス
大学院:文学研究科、経済学研究科、法学研究科
学部:文学部、経済学部、法学部(各34年)
文学部二部経済学部二部
〒980-8511 仙台市青葉区土樋一丁目3番1号
TEL.022-264-6421 FAX.022-264-3030

多賀城キャンパス
大学院:工学研究科
学部:工学部
〒985-8537 宮城県多賀城市中央一丁目13番1号
TEL.022-368-1116 FAX.022-368-7070

泉キャンパス
大学院:人間情報科学研究科
学部:文学部、経済学部、法学部(各1・2年) 教養学部
〒981-3193 仙台市泉区天神沢二丁目1番1号
TEL.022-375-1121 FAX.022-375-4040

東北学院中学・高等学校
〒980-0811 仙台市青葉区一番町一丁目9番1号
TEL.022-227-1221(代) FAX.022-227-6302

東北学院榴ヶ岡高等学校
〒981-3105 仙台市泉区天神沢二丁目2番1号
TEL.022-372-6611(代) FAX.022-375-6966

東北学院幼稚園
〒985-0862 宮城県多賀城市高崎三丁目7番7号
TEL.022-368-8600(代) FAX.022-309-2655



ウーラノス

東北学院大学 広報誌 vol.8

広報誌編集委員会

委員長	総務担当副学長	関根 正行
副委員長	総務部長	飯土井公洋
編集長	宗教部長	佐々木哲夫
委員	文学部教授	遠藤 健一
	経済学部教授	小笠原 裕
	法学部教授	斎藤 誠
	工学部教授	星宮 務
	教養学部教授	片瀬 一男
	総務部次長	高橋 征士
	総務部調査企画課長	石井 勝雄
	総務部総務課長補佐	桔梗 元子
	総務部調査企画課係長	伊藤 寿隆
	総務部調査企画課	石上 貴繁

東北学院大学広報誌『ウーラノス』に関するご意見・ご質問をお寄せください。今後とも皆様のご期待に沿えますよう、編集いたします。なお発行日は、6月・10月・2月となっております。

発行日 平成13年(2001)年10月20日
編集 東北学院大学 広報誌編集委員会
発行 東北学院大学
〒980-8511
仙台市青葉区土樋一丁目3番1号
TEL.022-264-6424 FAX.022-264-3030
URL <http://www.tohoku-gakuin.ac.jp/>
E-mail c.kikaku@staff.tohoku-gakuin.ac.jp
印刷 (株)エイエビー